

## 「なすびのギモン パート10」第二弾が放送されます

テレビ番組「なすびのギモン パート10」第3回・第4回が福島放送(KFB)で放送されます。福島市出身のタレント・なすびさんが実際に現地取材し、除染や放射線に関する様々なギモンや環境再生への取り組みなどを分かりやすくレポートします。



● 放送スケジュール(予定):福島放送(KFB)

第3回放送 2023年3月21日(火)21時50分～

テーマ「なすびと行く!ふく知るチャレンジモニターツアーってどうなっているの?」

2022年12月10日(土)に開催されたなすびと行く!ふく知るチャレンジモニターツアーで、環境再生が進む今の浜通りをなすびさんと一緒に巡りました。



第4回放送 2023年3月28日(火)20時56分～

テーマ「『福島、その先の環境へ。』対話フォーラムって?」

2023年1月21日(土)に新潟で開催された第7回『福島、その先の環境へ。』対話フォーラムについて、登壇者でもあるなすびさんとともにご紹介します。



※ 番組放送日時は変更となる可能性がありますので、最新の番組表などでご確認ください。

※ 番組終了後は、なすびのギモン公式ホームページでアーカイブ視聴ができます。ぜひご覧ください。

なすびのギモン

検索

## 第8回『福島、その先の環境へ。』対話フォーラム開催のお知らせ

2023年3月18日(土)に、8回目となる「福島、その先の環境へ。」対話フォーラムを仙台で開催します。「会場参加」「オンライン参加(コメント投稿可)」の2種類の参加方法がございます。当日の様子はYoutubeでライブ配信を予定しています。視聴のみの場合の参加申込みは不要です。



詳しくは、ホームページをご確認ください。

福島、その先の環境へ。対話フォーラム

検索

【お詫び・訂正】 ふくしま環境再生Vol.26の記述に一部誤りがあり、下記の通り訂正し、深くお詫び申し上げます。

■ 中面上部3行目：(正)約200の国・地域が参加しました (誤)約90カ国が参加しました

## 環境省の情報発信拠点

見学会やイベント等の詳細につきましては、各施設にお問い合わせ下さい

### ● 中間貯蔵工事情報センター



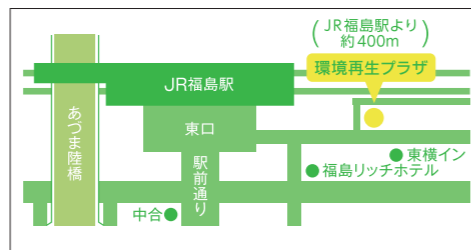
■所在地 福島県双葉郡大熊町  
大字小入野字向畑 256  
■開館時間 10:00～16:00  
■休館日 日曜日・月曜日、年末年始  
(月曜日が祝日の場合は翌平日)  
■電話番号 0240-25-8377  
中間貯蔵施設工事について紹介しています。  
毎月、中間貯蔵施設見学会(事前申込制)を開催しています。

### ● 特定廃棄物埋立情報館 リプルンふくしま



■所在地 福島県双葉郡富岡町  
大字上郡山字太田 526-7  
■開館時間 9:00～17:00  
■休館日 月曜日、年末年始  
(月曜日が祝日の場合は翌平日)  
■電話番号 0240-23-7781  
特定廃棄物の埋立処分事業について紹介しています。毎週末には参加型イベントや実験教室なども開催しています。

### ● 環境再生プラザ



■所在地 福島県福島市米町  
1-31 1階  
■開館時間 10:00～17:00  
■休館日 月曜日、年末年始  
(月曜日が祝日の場合は翌平日)  
■電話番号 024-529-5668  
福島の環境再生への取り組みなどの情報を紹介しています。常駐している専門家による解説や相談などを行っています。

# ふくしま環境再生 Vol.27



「ふくしま環境再生」では、環境省が進める環境再生事業や地域活性化事業などの情報を定期的にお知らせします。

環境省では、震災からこれまでの福島環境再生の歩みについての情報発信や、放射線に関するリスクコミュニケーションを通じた理解促進の取り組みを行っています。今回は、その一部をご紹介します。

## CASE. 1 双葉町「環境再生」デザインプロジェクト

このプロジェクトは、大学でデザインを学ぶ学生が、双葉町に進出する企業の協力を得て、小学校の教室などに残された布材から町由来のデザインを施したリメイク品等を制作し、20歳を迎える町のみなさんに贈呈する取り組みです。

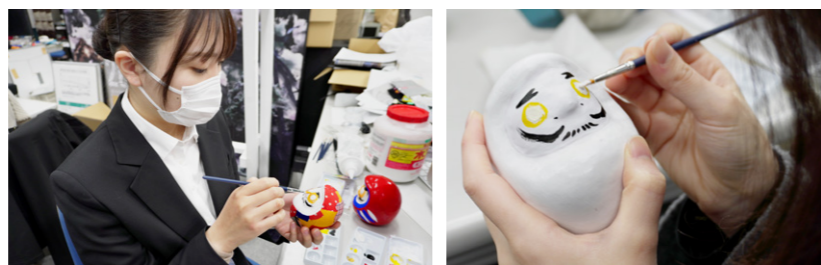
プロジェクトに参加した大学は、郡山女子大学短期大学部地域創成学科「つなぐデザインプロジェクト」ゼミに所属する学生のみなさん、協力した企業は、双葉町の中野地区復興産業拠点に工房と店舗を構える予定のアパレルメーカー、フレックスジャパン株式会社です。

### 【学び・交流】

デザインを考案するにあたり、学生のみなさんは、双葉町の復興状況やこれまでの歩みについて理解を深めるため、運転が再開した常磐線の双葉駅や町の災害公営住宅、中間貯蔵施設区域内等を巡るフィールドワークを行ったほか、双葉町役場、20歳を迎える町のみなさんと意見交換を重ねながら、フレックスジャパン株式会社の協力のもとリメイク品の制作に励んできました。



オリエンテーションの様子 双葉町を巡るフィールドワーク 中間貯蔵施設を見学



学生のみなさんがひとつひとつ想いを込めて絵付け

### 【完成報告会】

完成した成果品は、12月17日に双葉町で行われた報告会で、伊澤史朗双葉町長をはじめフレックスジャパン株式会社、環境省らに披露されました。震災当時通っていた小学校の教室や児童館に掛けられたカーテン、鼓笛隊の衣装などを用いて制作したリメイク品は、カードケース、パッチワークを施した双葉ダルマに生まれ変わりました。さらに、双葉町、福島県の環境再生や復興への想いを伝えられるポストカードも披露されました。



伊澤史朗双葉町長に完成報告

### 【はたちを祝う会】

これらの成果品は、1月7日に開催された「双葉町はたちを祝う会」の式典で20歳を迎えた町のみなさんに贈呈されました。パッチワークダルマを手にしたみなさんは、想い想いの願いを込めて片方の目に目入れを行いました。この記念品が、これから社会で活躍されるみなさんにとって、思い出を繋ぎ、時に心の支えになることを願っています。



記念品を新成人に贈呈

## CASE. 2 第6回相談員合同ワークショップ

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター(以下、放射線リスコミセンター)では、住民の放射線の不安に対応している相談員などを対象とした合同ワークショップを12月20日に開催しました。相談員や自治体職員、保健師など、会場・オンライン合わせて39名が参加し、現在やこれからのリスクコミュニケーションの在り方などについて有識者の方々からの話題提供と、ワークショップが行われました。

放射線リスコミセンターは、いわき市に事務所を置き、放射線による健康不安の低減を目的とした各種相談対応、専門家派遣、研修会やセミナー等の開催などを行っています。相談員合同ワークショップもその活動の一つです。

### 【はじめに】

崎田裕子氏(ジャーナリスト・環境カウンセラー)より「リスクコミュニケーションで考えてほしいこと」として話題が提供されました。事故後12年が経過し、放射線に関する対話の機会が少なくなっているなか、リスクコミュニケーションの継続は重要で、多くの方々の放射線不安に寄り添う場となるように略称をこれまでの「支援センター」から「放射線リスコミセンター」と変えて発信していくことや、今後、それぞれの地域で、関心や経験のある方を放射線リスコミセンターのファシリテーターとして登録し、対話を進める支援を広げていきたいなどの話がなされました。

### 【情報提供】

田巻倫明氏(福島県立医科大学)から国際機関の動向や医療で使われる放射線について、鈴木章記氏(環境省放射線健康管理担当参事官室)から相手にメッセージをどう伝えるか、内閣府、環境省、資源エネルギー庁から「我々を取り巻く環境の状況」として、それぞれ情報提供がなされました。



第6回相談員合同ワークショップの会場

### 【ワークショップ】

ワークショップでは「震災からの教訓をどう生かすのか」をテーマに、3つのグループに分かれファシリテーターを交えて、これまでの経験からの課題と対応、今後、どのような取り組みが必要かなどについて、経験や考えを共有しました。

グループワークの様子とファシリテーター



グループA:土屋智子氏  
(一般社団法人複合リスク学際研究・協働ネットワーク)



グループB:葛西賀子氏  
(フリージャーナリスト)



グループC:松原昌平氏  
(公益財団法人原子力安全研究協会)

グループディスカッションの講評は以下の通りです。

- 帰還者や新たな移住者に放射線の側面からの対応が必要な場合に、放射線リスコミセンターが協力し、支援する必要がある。
- 放射線不安を相談しにくいと感じている住民が、率直に話し合える場を、地域社会で作っていくことも必要である。
- 相談員等のメンタルヘルスも大切であり、仕組みとして取り入れられると良い。

放射線リスコミセンターでは、引き続き放射線に係る健康不安や質問などに対応する自治体職員や相談員等の方々、そして県外避難者や移住されるの方々に対して、支援を行ってまいります。

<お問い合わせ先> 放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

☎:0120-478-100 (月~金 9:00-17:00) ✉:F-sodan@nsra.or.jp

放射線に関するご相談や、活動内容に関するご質問等、お気軽にお問合せください。

